

事後評価報告書(日本－中国－韓国 研究交流)

1. 研究課題名:

「代替および観測資料に基づいた東北アジアにおける過去千年間の水文気候変動
－東アジアにおける21世紀末の温暖化と降水量増加への対応－」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者: 国立大学法人金沢大学環日本海域環境研究センター

名誉教授 柏谷 健二

2-2. 中国側研究代表者: 中国科学院南京地理湖沼研究所 所長、湖沼科学・環境科学国家重点研究室 主任、教授 Ji Shen

2-3. 韓国側研究代表者: 韓国地質資源研究院 表層地質・環境変動部門

首席研究員 Ju Yong Kim

3. 総合評価:(A)

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

湖沼-流域系を対象として、観測が不備な時代の資料(代替資料)と現在の観測資料を結合・比較するという新たな手法により、過去に自然や人為がもたらした環境変動に対する地表部の応答解析を行い、新たな知見が得られたことは評価できる。また共著論文4件のほか、原著論文が37件発表されたことも評価される。

一方、当初の計画に対して具体的にどの程度目標を達成したか、また、将来の東北アジアでの急激な気候変動に関わる災害の予知や対策にどのように貢献できるかとその道筋について、もう少しわかりやすく報告書に説明があればよかった。

(2)交流成果の評価について

日本、中国、韓国側を合わせ、延べ出張日数が約360人・月と数多くの交流を精力的に実施することにより、幅広い人的ネットワークの構築と相互理解ができたことは評価できる。また、日本から中国・韓国、中国・韓国から日本への訪問は時期、回数ともにバランスよく行われている。ワークショップ・セミナーが頻繁に開催されたことから、交流にむけての意欲が高いと判断される。

若手の具体的な人材育成について、報告書に説明があればよかった。

(3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

本事業の成果をとりまとめた英文書籍が予定どおり刊行されることを期待する。